

【水産林務部所管分】

平成26年第2回北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 平成26年6月20日（金）

質問者 民主党・道民連合 笹田 浩 議員

答弁者 知事、水産林務部長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 老朽漁船等の対策について</p> <p>漁業労働者の高齢化が進行し、後継者不足が大きな問題となっております。さらに近年、漁業経営も逼迫して、漁船の更新が進まず、漁船もある意味高齢化しています。</p> <p>このような中で、現行の制度だけでは円滑に漁船を更新することが進まないという状況に至っております。しかし、この老朽漁船対策に手を付けなければ、北海道漁業の将来はないと思っています。</p> <p>私は、担い手対策としての漁船の更新に向けた新たな支援の制度の創設が必要と考えるわけですが、道の考えをお伺いいたします。</p> <p>二 漁業資源増大対策について</p> <p>（一）栽培漁業の推進などについて</p> <p>漁業資源増大対策について、お伺いいたします。</p> <p>道内の海域別では日本海、太平洋が苦戦し、海域間の格差が大きくなっています。</p> <p>私の地元渡島も漁獲量の減少、カレイ類などの価格の低迷が続き、道南の漁船漁業は危機的な状況となっております。</p> <p>国、道、市町村、漁協なども資源づくりのため、マツカワやヒラメなどの放流事業に取り組んでいますが、漁協などでは、これ以上の受益者負担は厳しいという状況が続いているわけであります。</p> <p>今後の対策として、より栽培漁業のコストを下げるためのさらなる技術の開発に向けた試験研究の充実、地域特性に応じた栽培漁業や養殖業の推進など抜本的な対策を講ずるべきと考えますがいかがでしょうか。</p> <p>（二）河川環境整備による資源増大について</p> <p>中でも、サクラマス等は道南の重要な魚種であり、資源回復が望まれています。</p> <p>サクラマスは人工ふ化放流のほか、自然産卵に依存するというものが大きいと言われていています。</p> <p>この対策として、魚道整備なども進められていますが、治山ダム等に切れ込みを入れ、サクラマスが遡上することができるようにするスリット化も効果があるといわれています。</p> <p>道南地域は、早くから河川改修が進められた地域で、結果的に自然繁殖しづらい河川になったケースが多く、これが資源減少につながっていると考えております。川を元に戻すことで自然の力を回復させ、資源回復につなげる必要があります。</p> <p>平成23年度、道が島牧村の千走川支流九助川で実施した治山ダムのスリット化では、その後、上流にサクラマスの産卵床の増加が認められたのか伺います。</p>	<p>○ 高橋知事</p> <p>漁船の更新についてであります。本道の漁業は、資源の減少や燃油の高騰などによる漁業経営の悪化により、漁船の老朽化が進んでおり、将来にわたり、安定した漁業生産を行うためには、担い手対策の面からも、漁船の更新は、喫緊の課題と考えるところであります。</p> <p>このため、道では今年度、漁船の更新を促進するため、償還期限が長い、特別対策資金を創設をし、また、国においても、沿岸漁業の担い手等が協業化し、収益性の改善に取り組む場合に、漁船の取得も可能となる支援事業が創設されたところであります。</p> <p>道といたしましては、漁業団体と連携をし、これらの事業の活用を図るとともに、漁船の共同利用について、さらに検討を行うなど、本道漁業の振興に向け、漁船の老朽更新対策に積極的に取り組んでまいる考えであります。</p> <p>○ 山崎水産林務部長</p> <p>漁業資源増大対策に関し、栽培漁業の推進についてであります。本道におけるヒラメやマツカワの栽培漁業において、種苗生産や放流に要する経費は、漁獲金額に応じて漁業者の負担金などで賄われております。</p> <p>近年、魚価が低迷していることなどから、経費の削減が課題となっております。</p> <p>このため、道といたしましては、道総研栽培水産試験場などと連携し、コスト低減に向けた放流サイズの小型化や生残率の向上に向けた放流適地の見直しなどの技術開発に取り組んでいます。</p> <p>また、地域からの期待が大きいニシンやナマコの資源増大に加え、新たにイワガキやマボヤの養殖に向けた種苗生産技術の開発など、海域の特性に応じた栽培漁業や養殖業の振興に一層取り組んでまいる考えであります。</p> <p>○ 山崎水産林務部長</p> <p>治山ダムのスリット化などについてであります。道では、サクラマスの自然産卵に適した河川環境の改善を目的として、後志管内の千走川支流九助川において治山ダムのスリット化を行った結果、工事を実施した23年度にはダムの上流側に新たに22個の産卵床が、25年度には83個の産卵床が確認されています。</p> <p>道と致しましては、市町村や漁協などの意見を踏まえ、協議の整ったところからダムのスリット化を進めることとしており、現在、せたな町須築川の砂防ダムにおいても、スリット化に向けて取り組んでいるところであります。</p> <p>今後とも、関係機関と連携し、防災機能を確保しつつ、サクラマス資源を増大するなど、川の生態系にも配慮したダムの改良を進めてまいる考えであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>また、今後、関係機関と連携して、ダムのスリット化をおおいに推進すべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>砂防ダムのスリット化であります。サクラマス資源保護だけでなく、河川の河床低下や河岸崩壊、農地や道路の崩壊、橋梁橋台部の侵食をふせぐなどへの効果も期待されています。</p> <p>答弁をいただいたとおりに、スピード感を持って、水産林務部・建設部など関係部局の協力により地域としっかり協議しながら進めていただくよう指摘します。</p>	